

おすすめ図書紹介

正欲



朝井リョウ 著
新潮文庫

幸せのかたちはそれぞれ。認め合い。常識や価値観は昔とは違う。多様性が謳われる時代で、あなたはすべてを受け入れることはできますか？そもそも無意識のうちに受け入れる側に立っていませんか。

街には、明日死にたくない人たちのために必要な情報が散らばっている。本を読んでこの文の意味が分かりました。

この本は、ある事件を中心にそれぞれの抱えているものが紐解かれていきます。重く深く刺さる文がいくつもあります。何をどう感じるか、どう思うかは自由です。他人が理解できることか、想像もつかないようなことかは分かりません。私はこの本を読み、学んだ自分なりの考えが頭に入っていることでこれから出会う物事への捉え方が広がると感じました。この本を手にとれたことにとっても価値があると思いました。是非皆さんにも読んで頂きたいです。

体育学部3年 飯島 櫻子

あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。

親や学校、すべてにイライラした毎日を送る少女がある日、母親と喧嘩をして家を飛び出し、目をさますとそこは70年前、戦時中の日本でした。偶然通りかかった特攻隊員の青年に助けられ、彼と過ごす日々の中、少女は青年の優しさと誠実さに惹かれていきますが自分の想いに気づき想いを伝えようとした時、青年に出撃命令が下されてしまいました。



汐見夏衛 著
スターズ出版

この小説は、最近公開された映画の原作です。映画と原作とでは内容が多少異なっている部分はありますが映画を観てから小説を読むのも、小説を読んでから映画を観るのもおすすめです。ラストには出撃してしまった青年の少女に対する打ち明けられなかった想いが明かされます。また、この本の続編も出版されているので続きが気になる方もぜひ、読んでみてください。

体育学部2年 本地 未波

東大よりも世界に近い学校

「あなたは一体何者で、社会にどのように貢献することができますか？」この質問にあなたはすぐに自信を持って答えることができますか？実を言うと、これは日本人には中々答えづらい質問なんです。

この本は「学校はオワコンだ」という衝撃的な見出しから始まり、学校が存在する理由や課題点、現代人に必要な考え方、著者の学校改革の経験談など、これからの学校に必要な考え方や知識がぎゅっと一冊にまとまっています。これを読めば、あなたもきっと学校だけでなく世界を変える勇者になれるはずです。

「日本で一番学校説明会に人が集まる」と言われる校長である著者がおくる、本当に学校で身につけるべきこと、「2050年」を生き抜くためのミライの授業。教師を目指す人には是非一度読んでほしい一冊です。

体育学部1年 坂口 葵



日野田直彦 著
TAC出版

図書館カレンダー

状況により変更する場合があります。

9:00~13:00	9:00~14:00	9:00~16:00	9:00~17:00
9:00~19:00	9:00~20:00	終日閉館	未定

2024年 4月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

2024年 5月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2024年 6月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

2024年 7月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2024年 8月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2024年 9月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

編集・発行：東京女子体育大学・東京女子体育短期大学
図書館運営委員会
東京都国立市富士見台4-30-1 TEL.042-572-4131

過去は変わらない、変えられるのは“今” 「今」どう生きるかで未来は変わる

人生を豊かにするためには、今この瞬間とつながる時間を持つことが不可欠です。未来を考えて思い悩むのも「今」。過去を振り返って後悔するのも「今」です。今をどう生きるか。過去への後悔や未来への不安に押しつぶされそうになった時こそ、今この瞬間に戻ってくる必要があります。「今できること」そのものに集中してみましょう。第一歩として読書をしてみませんか？

図書館運営委員 栗林 千聡



スポーツウォッシング —なぜ〈勇気と感動〉は利用されるのか—

五輪やサッカーW杯を始めとするスポーツイベントは人々の注目を集めるコンテンツであり、スポーツ基本法においても『日本人選手の活躍は、国民に誇りと喜び、夢と感動を与え』と明記され、スポーツの価値に期待するところは大きいといえます。しかし近年は、スポーツと「お金」や「政治」に関する問題も顕在化、東京五輪に関する汚職問題も記憶に新しいところです。

『スポーツウォッシング』とは、スポーツに伴う観客の熱狂や気持ちの高揚それに伴う積極性などにより、スポーツの背後に隠れる問題・課題から人々の意識をそらせようとするものであり、近年都合の悪いことやイメージ低下を覆い隠す・洗い流す意味でよく耳にするフレーズです。

海外のアスリートが社会問題に対し自身の考えをSNS等で積極的に発信している現在、体育大学で学ぶ私たちもこの「スポーツウォッシング」について何らかの考えを持つことは大切なことといえます。一読していただければ幸いです。

体育原理研究室 早瀬 健介



西村 章 著
集英社

科学の方法

私は、陸上競技、コーチング学、スポーツ心理学を専門としている。どれも中途半端なので専門性はまだまだ足りない。紹介する本書では、スポーツ科学に共通する内容が書かれている。「現象を測るとはどういうことなのか（測定可能性）」、「同じことを調べて同じ結果が得られるか（再現可能性）」など分かりやすく説明されている。

皆さんは、科学は万能であると思っていないだろうか？本書は、この考えに警鐘を鳴らしている。“われわれは、科学はその頂点に達したように思いがち”だが、“自然の深さと科学の限界を知っていた人たちが、つぎつぎと、新しい発見をして科学に新分野を拓いてきた”と著者は述べている。

科学と聞くと難しそうだと思うかもしれない。しかし安心してほしい。難しくて分からないと感じることが大切だ。そこから先は専門の先生が教えてくれる。

これらをふまえて科学的なアドバイスをすると、“絶対”とか“100%”とか多く使う人は怪しい人なので、だまされないようにしてほしい。

陸上競技研究室 丸尾 祐矢



中谷 宇吉郎 著
岩波書店

いじめのある世界に生きる君たちへ —いじめられっ子だった精神科医の贈る言葉

本書は精神科医・中井久夫さんの著書で、2022年に中井さんが亡くなられたことで、改めて注目されました。小学校高学年の子どもから大人まで読めるよう、中井さん自身のいじめられっ子だった経験も踏まえ、わかりやすく、リアルで繊細な言葉で紡がれています。

本書では、いじめが進んでいくプロセスを「孤立化」「無力化」「透明化」という巧妙で息の詰まるような3つの段階で説明しています。このプロセスを経たいじめは、被害者に逃げ場のない究極の「出口なし」感を与えます。

そのような状況にある子どもたちが、自らの尊厳を失わずに生き延びられるようにという祈りを込めて書かれています。また、大人である私たちに対し、子どもたちのSOSをキャッチし、「見えない」ことにせず、覚悟をもって向き合ってほしいというメッセージが綴られています。

いじめのある世界で、人とのつながりが問われる今だからこそ、ぜひおすすめしたい一冊です。

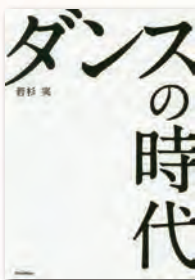
教育相談研究室 田島 真沙美



中井 久夫 著
中央公論新社

教員の専門に関連する 話題の図書

ダンスの時代



若杉 実 著
リットーミュージック

現代は「ダンスの時代」と言っても過言ではありません。ダンスは、ドラマやCM、K-POPの完コピ、TikTokの流行により、非常に身近な存在になりました。そして、いよいよパリ2024オリンピックで「ブレイキン」が競技種目として実施されます。今回は、そんなパリ五輪前に一読して欲しい本を紹介します。

本書は、Bボーイ、Bガールと呼ばれるブレイカーズに焦点を当て、日本でのストリートダンスにおける変遷を読み進め

ることができます。歴史的な背景を知った上で、現在を見つめると新たな発見や見え方があるかもしれません。

また、最後のページを閉じた時に「ダンスとは何だろう？」と自問自答してみてください。私は、ジャンルに拘るのではなく、「ダンス」と広く捉えた時に、ノンバーバル（非言語）のコミュニケーションをすることは、私にとっては呼吸と同じように生命維持に必要な自己表現の一つだと改めて気が付かされました。

皆さんは、本書から何を読み取るでしょうか？ぜひ感想を教えてください。

ダンス研究室 高橋 佳子